

石井克典ピアノリサイタル

ピアノソナタ第27番 ホ短調 Op.90……………ベートーヴェン
ラウンス(1967) & 水のピアノ(1965)……………L.ベリオ
4つのピアノ曲 Op.119……………ブラームス
12の練習曲 Op.10……………ショパン

浜松出身の
演奏家シリーズ V

1998 四季コンサート ふれあい音楽会

1998年7月17日(金) 6:45PM
会場：浜松市教育文化会館
主催：浜松音楽友の会

プロフィール

石井克典 (ピアノ)

浜松出身。7歳より大貫妙子氏についてピアノを始め、11歳より小高明子、加藤伸佳 両氏に師事。カワイ音楽コンクール全国大賞、学生コンクール東京大会第1位入賞。東京音楽大学付属高校、東京音楽大学に特待生として学び日本音楽コンクール第3位入賞。中島和彦、弘中孝、田村宏の諸氏に師事。卒業後は野島稔、中村紘子の各氏に師事。92年ヴァン・クライバーン協会リサイタル出演後渡米し、タングルウッドミュージックセンターでレオン・フライシャー、ピーター・ゼルキンに師事し、演奏会を行う。93年クリーヴランドのR.カサドシュ国際コンクールで第4位入賞を果たし、ニューヨークのマネス音楽大学院に奨学金を得て入学。ステファニー・ブラウン女史に師事。96年J・フィーデルマン賞を授与されマネスを卒業、修士号取得。同年アメリカでギルモア音楽祭に招待されリサイタル、ドイツでは奨学金を授与され K.H.ケムマーリング氏指導のもと S.ホルシュタイン音楽祭で演奏会を行う。近年はナウムバーグコンクール優勝者のヴァイオリニスト、奥村智洋氏とのデュオでニューヨーク、東京で大成功を収める。また第2回浜松国際ピアノアカデミーコンクールで優勝し、カーネギーリサイタルホール、スタインウェイホールを始め、日米で活発な演奏活動を行っている。秋にはニューヨークのヒュートン大学でリサイタルとマスタークラスを行う。11月には鹿児島交響楽団との協演が予定されている。

石井克典
ピアノリサイタル



KATSUNORI ISII
PIANO RECITAL

●ベートーヴェン／ピアノ・ソナタ第27番 ホ短調 Op.90(作曲年 1814年)

この曲は彼の後期作品の入口に位置します。作曲家としての完全な名声を得ていたにもかかわらず、政情不安や戦争の痛手、難聴の進行や最後の結婚の望みが断たれたことで、ベートーヴェンは絶望と孤独の中にいました。そこから彼は今までよりもっと直接、人の心に訴えかける音楽を作っていくようになります。これらがベートーヴェン後期の傑作群となります。曲は2つの楽章から成り、中期の作品とは全く違った内容です。より個人的で人生のはかなさや絶望の中でのほろかな憧れなどの感情が読みとれます。

第1楽章：ホ短調 3/4 速く、そして終始感情と表情をもって。「理性と感情の争い」とも言われています。

第2楽章：ホ長調 2/4 速すぎず十分歌うように。「恋人との会話」と言われます。

●L.ベリオ／ラウンズ(1967年)と水のピアノ(1965年)

ルチアーノ・ベリオは自身ピアニストを目指していましたが、参戦のため負傷し、その後作曲と指揮を学んだ今世紀最高の作曲家の1人として活躍しています。

ラウンズ 1967年作で曲頭に「流れるようにそして神経質に、いらいら」と表示されていて、最強音、弱音、ベタ音質、厳格なリズムなどあらゆる現代演奏技巧を4分半の間にピアニストへ課しています。

水のピアノ 曲頭に「やわらかく遠くから聴こえるように」と表示されていて、「ファ」の通奏低音に乗ってブラームスとシューベルトの小品の動機がまるで水面を漂っているかのように聴かれます。ラウンズとは全く対照的なわずか1分半の珠玉の小品です。

●ブラームス／4つのピアノ曲 Op.119 (作曲年 1892年頃)

ブラームス最後のピアノ曲集で最も感動的な作品の1つです。60歳のブラームスの独り言や涙、喜ばしい日々の思い出といった感情が表現されている様に思われます。

- 1.間奏曲 ホ短調 3/8 ゆっくりと。すすり泣くような悲歌の中に、時にはは笑みが見られます。
- 2.間奏曲 ホ短調 3/4 やや緩やかに、少しせき込んで。不安な寂しい曲で中間部に思い出のような喜ばしい部分があります。
- 3.間奏曲 ハ長調 6/8 優雅にそして陽気に。明るくユーモラスな曲で喜ばしい気分の中ちよとした皮肉も混ざっています。
- 4.狂詩曲 変ホ長調 2/4 速く決然と。英雄的な張り切った主題と、不安や優雅な気分が組み合わされています。結びは短調になっていて、人生を肯定したい気持ちと逆の悲しさが相反しているような力強い終結です。

●ショパン／12の練習曲 Op.10 (作曲年 1829～1832年)

すべての曲が美しい音楽であり難曲揃いですが、バッハの平均率とドビュッシーの練習曲集と並んで常にピアニストにとって発想を鍛え、美しくピアノを歌わせ鍵盤上の自由をどのように獲得するかを考えさせてくれる作品として重要です。

- 第1：ハ長調 4/4 速く。壮大なギリシャ建築を想起させる巨大なコラール。右手の分散和音の練習。
- 第2：イ短調 4/4 速く。ささやく様な微妙な心の動きを描き出します。中指、薬指、小指だけで半音階を弾く最難曲の1つ。
- 第3：ホ長調 2/4 おそく、しかしおそすぎず。「別れの曲」として有名。メロディーと発想の練習。
- 第4：嬰ハ短調 4/4 機敏に。火のような曲想で両手の俊敏さを要求する。
- 第5：変ト長調 2/4 生き生きと。「黒鍵」の練習曲として有名。右手が黒鍵だけを弾き、左手が和音に支えられた旋律になっている。
- 第6：変ホ短調 6/8 歩く速さ。発想とタッチの練習。暗く陰うつな気分を声部ごとに歌い上げる。
- 第7：ハ長調 6/8 生き生きと。右手の様々なポジションに組み合わせた和音を急速に奏するユーモラスな曲。
- 第8：ヘ長調 4/4 速く。左手の旋律に支えられ右手が空を舞うごとく輝きをもった軽快な曲。
- 第9：ヘ短調 6/8 速くとてもせき込んで。左手の分散和音に乗せて右手があえぐような感情を作り出す練習。
- 第10：変イ長調 12/8 きわめて生き生きと。リズムとアクセントによって陰影の対照を作り出す靈感に満ちた練習曲。
- 第11：変ホ長調 3/4 適度な快活さで。幸福感に満ちた両手の分散和音の練習曲。時に内声から旋律が聴こえ、魔法のギターのような曲。
- 第12：ハ短調 4/4 速く火のように。「革命」の練習曲として有名。左手の上下する音形が壮烈な右手のメロディーを支える。特に左手の力の配分を研究する練習曲。